

第2章 むらづくりの目標

第1節

むらづくりの目標

近年、我が国においては、少子高齢化の進行、経済成長率の低迷、経済・社会のグローバル化が進む中で、格差の拡大、地域や人と人との絆の弱体化が顕在化するなど社会の仕組みが大きく変わってきており、その時代の流れに対応しきれない様々な課題が山積しています。

特に、これらの事象に対応しきれない現状から、日々の暮らしに加え将来への展望が開けないことへの不安や危機感が溢れています。

このような中であって、南山城村においては、豊かな自然や今日まで築き上げてきた伝統や文化などの貴重な財産を守り育てながら、一段と深刻化する課題に的確に対応し、「豊かな暮らしと潤いのある社会」をめざして、誰もが住んでみたいと思う地域社会を構築していくことが求められていると考えます。

「豊かな暮らしと潤いのある社会」は、安定した経済活動に支えられる活発な地域活動が展開される中で、豊かな自然環境の保全、保健・福祉の充実、生活基盤の整備、教育・文化の振興が図られ、住民一人ひとりが充実した暮らしを送ることができることを基本と考えています。

このようなことを踏まえて、南山城村第4次総合計画の策定のあたっては、南山城村で生活する村民を主役として「自然・歴史との共生・活用」、「交流・連携による活力創出」、「暮らしと文化の創造」を基本的なテーマとして、「村で暮らす」ということを今一度問い直し、行政、住民、NPO、地域団体、企業等がそれぞれの役割を超えて、村があり続けるための方策、村で暮らし続けるための新たな仕組みづくりを展開すべき時期に来ています。

むらづくりビジョン

自然が薫り 絆が生きる 自立するむら！みなみやましろ

自然とのふれあいは、潤いとやすらぎを人々の生活にもたらしてくれます。

歴史と接することは、ふるさとの価値を高め、ふるさとへの誇りにつながります。

長年に渡って築き上げてきた人と人との絆、地域の絆が生き続けている村をこれからも守り大切にしながら、新たな交流・連携の中で生まれる絆をつくり上げていかなければなりません。

人と人とのふれあいは、あたたかさや創造力にあふれる心を育て、躍動感にあふれた村をつくり上げます。

このためには、暮らしの基盤を安定させることが大切であり、支え合える仕組みづくり、住民が安心して安全に暮らすことの出来る地域社会を住民とともに築き上げることが村の自立につながっていくものであると考えます。

時代の流れを正しく認識し、国や府、近隣自治体との連携のもとに夢と希望の持てるむらづくりを推進することこそ、南山城村に求められているものと考えます。

第2節

将来人口

我が国の人口は平成23年10月現在1億2,805万7千人で、そのうち65歳以上人口は2,924万6千人と高齢化率は23.0%（平成22年国勢調査、確定人口）となっています。

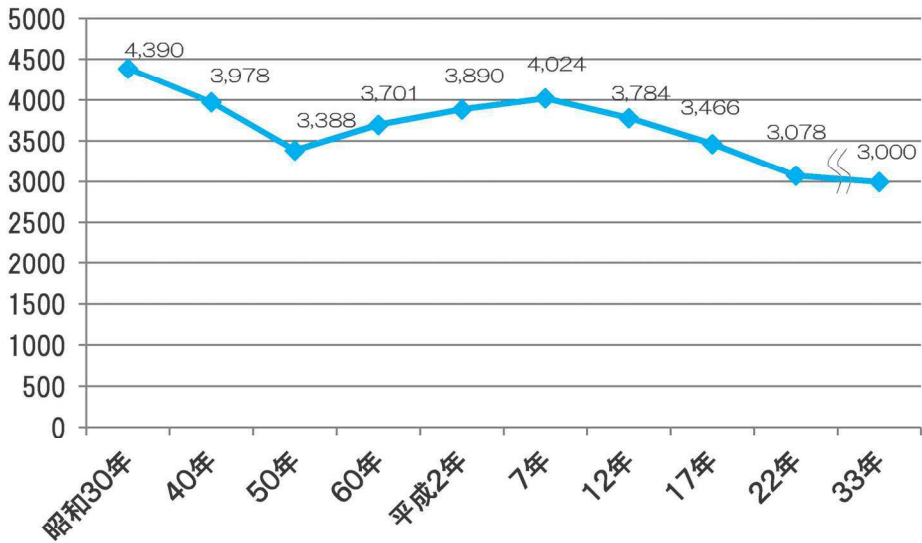
前回調査の平成17年から横ばいで推移していますが、京都府では約1万2千人減少し、人口減少時代に突入しています。

南山城村においては、既にこの人口減少が顕著に現れており、少子高齢化は今後もさらに進むものと考えられます。

平成12年の国勢調査における人口は3,784人でしたが、平成22年では3,078人、10年間で706人、18.7%の減少となり、高齢化率も35.2%に達しこれからもこの傾向は続くものと考えられます。

このような人口減少に歯止めをかけることが村に課せられた大きな課題であり、魅力あるむらづくりを積極的に進めることにより人口流出を防ぎ、人口流入を促進し現状人口の維持に努めることとして、平成33年の目標人口を3,000人と設定します。

将来人口の推移



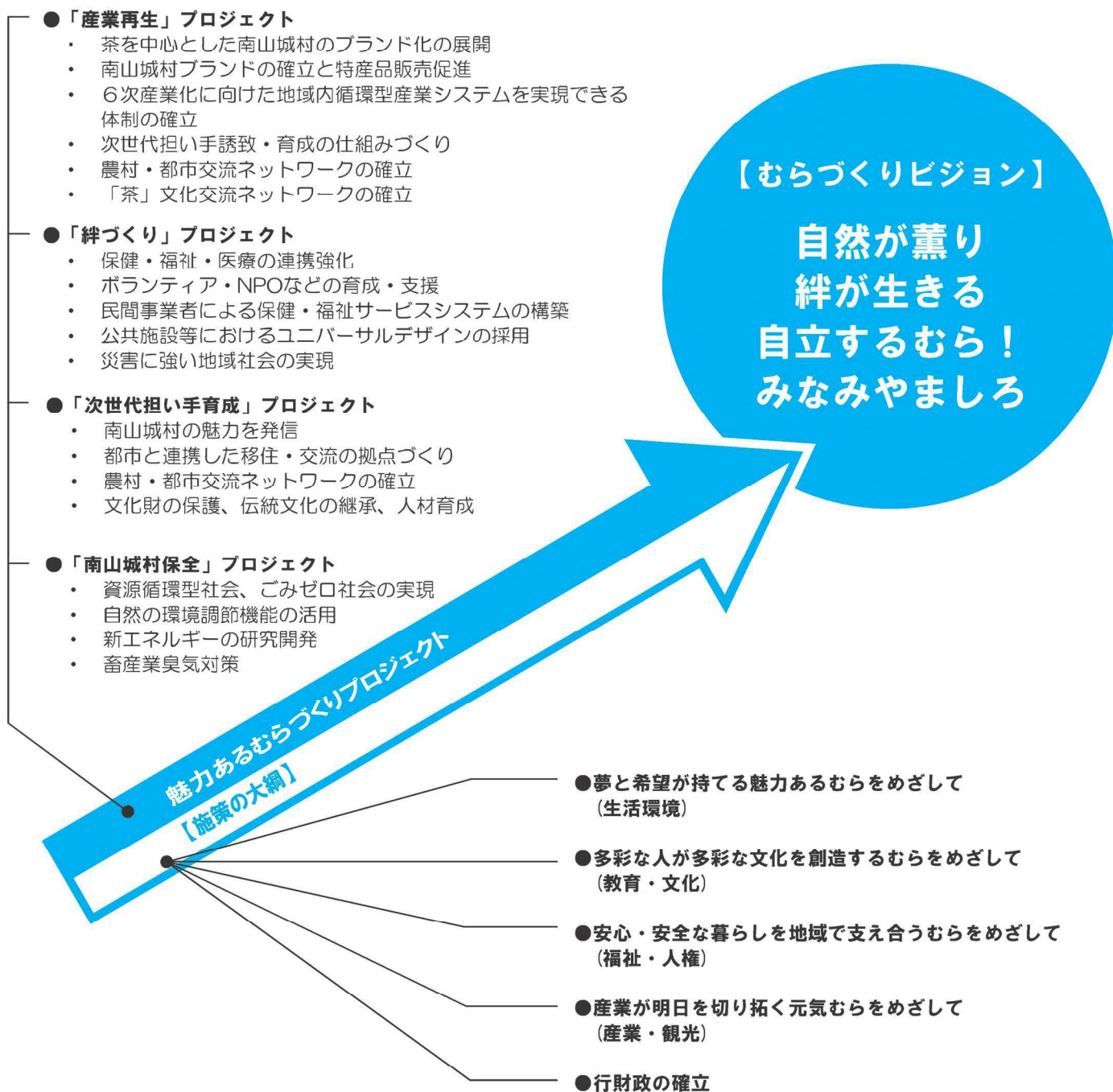
※平成22年までは国勢調査人口、平成33年は推計人口

第3章 施策の大綱

むらづくりは、日々の生活に密着したことから将来に向けた基盤整備などに至るまで、幅広く様々な分野に及びます。

そこで、村の目指す姿（将来像）「むらで暮らし続ける」の実現に向けて、各分野ごとの基本目標として“4つの柱”を設定し、行財政の確立を含めそれぞれの基本方向を示し、基本方向に沿った施策の推進を図ります。

施策の推進にあたっては、魅力あるむらづくりプロジェクトとの連携を重視し、計画的で総合的な施策推進を図ります。



第1節

夢と希望が持てる魅力あるむらをめざして

豊かな自然との調和を図りながら、南山城村独自の潤いのある環境整備を進める一方、村の魅力をより高めて村民満足を得るとともに、その情報を村外にも発信することにより村の活性化を図ります。

また、生活基盤や道路網の整備を進め、集落が分断されがちな村に一体感を持たせるようにしていきます。

さらに近隣市町等との多様な交流・連携を促進し、ふれあいの輪が広がるむらづくりを進めます。

施策の体系

- **水と緑の豊かな環境づくり**
 - ◇ 自然環境の保全・育成
 - ◇ 循環型社会の形成
- **暮らしを支える生活基盤の充実**
 - ◇ 総合的な交通体系の整備
 - ◇ 良質で安定した浄水の提供
 - ◇ 高度情報ネットワークの有効活用
- **快適な生活空間の形成**
 - ◇ 良好な居住環境の形成
 - ◇ 秩序ある土地利用の促進
 - ◇ 犯罪を防ぐ環境づくり

第2節

多彩な人が多彩な文化を創造するむらをめざして

豊かな自然の中で、一人ひとりの個性と生きがいを育て、感性豊かでいつまでも輝き続けるような暮らしが送れるように、学校教育を始めとする生涯学習の振興を図ります。

また、このような生涯学習活動と一体となって地域の文化活動を推進し、個性豊かな文化を創造します。

施策の体系

- **村民一人ひとりが輝きつづける生涯学習の振興**
 - ◇ 相楽東部広域連合と連携した学校教育の充実
 - ◇ ふるさとを愛する心の育成
 - ◇ 生涯学習の推進
 - ◇ 青少年の健全育成
 - ◇ 広域的な交流活動の推進

- **個性豊かな文化の創造**
 - ◇ 南山城村ならではの文化の育成と創造
 - ◇ 文化財の保存と伝統文化の継承発展

第3節

安心・安全な暮らしを地域で支え合うむらをめざして

子どもからお年寄りまで全ての人が、元気で安心して安全に潤いと安らぎのある暮らしが送れるように、温かい心に包まれた福祉社会の実現を目指します。

そのため、各種の福祉施策の充実、保健・医療の充実に努めるとともに、思いやりと助け合いのあるふれあいに満ちたコミュニティづくりを進めます。

また、福祉やむらづくりなどを自発的に行うボランティア・NPO等を育成・支援を行い、地域住民を含めて協働によるむらづくりを進めます。

さらには、相互に助け合う精神とともに、違いを認めあい「個」を大切にす社会づくりめざして、人権の尊重、男女共同参画社会の実現を推進します。

施策の体系

- **ぬくもりのある支えあいの福祉社会の実現**
 - ◇ 高齢者福祉の充実
 - ◇ 児童福祉の充実と子育て支援
 - ◇ 障がい者（児）福祉の充実
- **いきいきとした健康な生活をめざして**
 - ◇ 医療の充実
 - ◇ 健康づくりの推進
- **ふれあいに満ちたコミュニティの形成**
 - ◇ 人と人の絆、地域の絆を守り育てる施策推進
- **ボランティア等の育成・支援**
 - ◇ 住民と行政の協働の拡充
- **「個」を大切にする社会の実現**
 - ◇ 人権の尊重
 - ◇ 男女共同参画社会の確立
- **災害に強い地域社会の実現**
 - ◇ 災害の防止と防災体制の確立

第4節

産業が明日を切り拓く元気むらをめざして

南山城村の自立性を高めるために、地域の個性や資源を活かした産業の活性化を推進していきます。

特にお茶を中心とした農業振興に力点を置いて、環境にも配慮しながらそれぞれの地域の特性に応じた農業、商業、サービス業、工業等を適正に配置します。

同時に魅力ある産業振興により、若者の定住や雇用対策につなげて活力ある元気なむらづくりを目指します。

施策の体系

- **自然と歴史に根付いた農林業の振興**
 - ◇ 茶業の振興
 - ◇ 農業の振興
 - ◇ 林業の振興
 - ◇ 高付加価値型農林業の推進
 - ◇ 獣害対策
- **商工業の振興**
 - ◇ 商業の振興
 - ◇ 工業の振興
- **人と文化が交流する観光ネットワークの確立**
 - ◇ 観光レクリエーションの整備・充実
 - ◇ 観光関連産業の振興

第5節

行財政の確立

住民に信頼され、親しまれる行政を進めるために、住民参加の促進、情報の公開等をさらに進め、住民要望に的確かつ迅速に対応します。

また、引き続き行財政改革が求められている中で、行財政の合理化・効率化を積極的に進めます。

行財政環境は、今後もますます厳しさを増すものと予想され、健全な行財政運営を進めるため、自主財源を確保する施策の展開や適性で計画的な財政支出に努めます。

また、これから進む地方分権に的確に対応するための体制強化や財源確保を近隣市町等との連携強化を図りながら進めていきます。

施策の体系

- 住民参加と情報公開
- 行政運営の合理化・効率化
- 健全な財政運営の推進
- 地方分権に対応する体制
- 広域的な連携に向けて

第4章 魅力あるむらづくりプロジェクト

むらづくりの目標である「自然が薫り、絆が生きる 自立するむら！みなみやましろ」を実現するために、施策分野ごとの体系については「第3章 施策の大綱」で示していますが、特に重要な事業・施策については「魅力あるむらづくりプロジェクト」と位置付け、行政と村民の英知とエネルギーを結集してその実現方策を検討し、目標を達成するものとします。

第1節

むらで暮らし続けるための「産業再生」プロジェクト

南山城村では茶業を中心とした農林業が基幹産業ですが、茶業低迷などによる収入減、後継者不足、耕作放棄地の増加などが顕在化しています。

南山城村で暮らし続けるためには、南山城村の基幹産業である農業を持続可能な農業として展開しなければなりません。

持続可能な農業の展開には、従来の茶を中心とした本物づくりの生産技術を守る一方で、付加価値を高める新たな取り組みや、6次産業化などへの挑戦といった若い世代が就労できる農業振興施策への体制づくりをしていく必要があります。

従来の「つくる」ことに特化し技術を高め生産者だけが考えるという従来の1次産業としての農業から、加工、販売、特産品 PR など地域ぐるみで農業に関わり、地域ブランドとして育てる仕組みづくり、6次産業化に向けた地域内循環型産業システムを実現できる体制づくりを推進します。

- 茶を中心とした南山城村のブランド化の展開
- 南山城村ブランドの確立と特産品販売促進
- 6次産業化に向けた地域内循環型産業システムを実現できる体制の確立
- 次世代担い手誘致・育成の仕組みづくり
- 農村・都市交流ネットワークの確立
- 「茶」文化交流ネットワークの確立
- 獣害対策

第2節

むらで暮らし続けるための「絆づくり」プロジェクト

南山城村においては、平成12年の国勢調査における人口は3,784人でしたが、平成22年では3,078人、10年間で706人、18.7%の減少となり、高齢化率も35.2%に達しこれからもこの傾向は続くものと考えられます。

また、先に実施した住民アンケート調査においても、医療施設の充実と高齢者の生活支援などの高齢者福祉の充実を期待する声が多かったという結果となっています。

このため、行政の力だけで実施することには限界があるため、行政・住民相互が助け合い支え合って、誰もが健やかでやすらぎと潤いのある暮らしが送れるように保健・福祉の充実に努めるとともに、地域全体で支え合い暮らし続けられる仕組みづくりを推進します。

- 保健・福祉・医療の連携強化
- ボランティア・NPOなどの育成・支援
- 民間事業者による保健・福祉サービスシステムの構築
- 公共施設等におけるユニバーサルデザインの採用
- 総合的な交通体系の整備
- 絆が支える地域づくり

第3節

むらで暮らし続けるための「次世代担い手育成」プロジェクト

南山城村は、大都市からは離れていて生活をするには不便な山村ですが、一方で、水と緑、冷涼な気候という自然環境が豊かにあり、「田舎暮らし」を求める傾向が強まってきている都市住民からすれば、その受け皿として注目を浴びています。

自然とのふれあいは、潤いとやすらぎを人々の生活にもたらしてくれます。歴史と接することは、ふるさとの価値を高め、ふるさとへの誇りにつながります。

長年に渡って築き上げてきた人と人との絆、地域の絆は、あたたかさや創造力にあふれる心を育て、いきいきとして誰もが住んでみたいと思う魅力にあふれた村をつくり上げます。

このため、豊かな自然や今日まで築き上げてきた伝統や文化などの貴重な財産を守り育てながら「豊かな暮らしと潤いのある社会」をめざして、誰もが住んでみたいと思う地域社会を構築していかなければなりません。

また、若い世代が暮らしやすい環境づくりと村の環境に適したワークスタイル等を確立し、次世代の南山城村の担い手が育成できる、定住・移住促進の取り組みを積極的に展開します。

- 南山城村の魅力を発信
- 都市と連携した移住・交流の拠点づくり
- 農村・都市交流ネットワークの確立
- 文化財の保護、伝統文化の継承、人材育成

第4節

むらで暮らし続けるための「南山城村保全」プロジェクト

地球規模での環境変化をもたらす温室効果ガスの排出量は地球全体で増え続けており、廃棄物の量も減少傾向にあるものの依然として高止まりの状態にあり、エネルギーの大量消費による大量生産、大量消費、大量廃棄型のライフスタイルの見直しが必要とされています。

また南山城村では、豊かな自然や今日まで築き上げてきた伝統や文化などの貴重な財産が数多くあり、今もなお生き続けており、これをしっかりと守っていくことが求められています。

「豊かな暮らしと潤いのある社会」をめざして、次に掲げる施策に取り組むことにより、誰もが住んでみたいと思う地域社会を構築していかなければなりません。

特に、畜産業の臭気対策は長年の懸案事項として各般の取り組みが行われてきましたが、現在も解決には至っていません。これを解決に導くことを環境対策における喫緊の課題と位置付けて取り組みを推進します。

- 資源循環型社会、ごみゼロ社会の実現
- 自然の環境調節機能の活用
- 新エネルギーの研究開発
- 畜産業等臭気対策